

ぼうさい通信 62号



令和5年1月16日発行
熊本県立湧心館高等学校

今年度、全日制が担当する最後のぼうさい通信です。今回は、全日制の防災委員全員で内容を考えました。身の回りの災害や冬に起こりやすい災害について調べてみましたので、これを読んで是非、対策に役立ててみてください。

地震が起きた時、あなたはどうしますか？

地震が起きた時の対処法を知っていますか。ここでは2つ例を紹介します。

①【家具を固定する】

家具を転倒防止金具で固定することによって、転倒を防ぐことができます。これは寝ている時など無防備な時に役に立ちます。

②【水の確保を常にしておく】

熊本地震では水道が止まり水が使えなくなりました。この経験から水の大切さを感じたことだと思います。1人1日3L程度の水が必要だと言われています。常に最低3日分の9L、できれば7日以上分の21Lを確保しましょう。

また、地震が起きた時には家族への連絡手段も大切になります。

①【携帯電話が使える場合】

〈災害用伝言ダイヤル〉を使いましょう。[171+1+自宅の電話番号など]にかけると伝言の録音ができます。[171+2+自宅の電話番号など]にかけると伝言を聞くことができます。

[あの人、いない(171)]で覚えましょう。

②【携帯電話が使えない場合】

事前に家族で連絡が取れない場合の集合場所を決めておきましょう。ガラスや看板などの落下物を避け安全な経路を予想して集合できるようにしましょう。



冬は火事の季節

冬は、火を使うことも多く、空気も乾燥して火事が起こりやすい季節です。火事の対策も知っておきましょう。

①ストーブや電化製品をつけっぱなしにして寝る、ストーブの上に洗濯物を干す、周りに燃えやすいものを置く、などには気を付けましょう。

②コンセントにほこりがたまるとそこから火が出る場合があります。こまめに掃除するようにしましょう。



③卓上コンロなどで火を使う機会も増えます。冬しか使わず、使い慣れていないものなどは、使用方法をきちんと理解して使いましょう。

④エアコンは火を使わないものの、空気を乾燥させますので、一旦火が出れば非常に燃えやすい状態になります。一緒に加湿器を使うなど工夫しましょう。

もし、火事が起きたら・・・

①小さくてもいいので家庭用消火器を用意しておくことで安心です。また、てんぷら油などの料理で火が上がったとき、消火器があれば一番ですが、消火器がない場合は慌てて水をかけたりせず、濡れたバスタオルやシーツを軽くしぼって隙間なく鍋を覆うようにすると空気が供給されなくなり、火は消えます。

②家庭用の火災報知器の設置も有効です。設置されていない場合は、2000円前後で買えるものも多くありますので、是非準備しましょう。また、設置されていても電池切れで作動しないことがあるので、定期的に動作確認を行いましょ

路面や水道管の凍結にも注意

冬は様々なところが凍結します。路面の凍結による転倒や水道管の凍結についての対策も調べてみました。

凍結した道路を自転車で通るときは

①まずはゆっくりと安全運転をすることです。スピードを出しすぎていると氷の上ではすぐには止まれません。登校中や急用など急いでいるときでもゆとりを持って運転しましょう。



②ブレーキをかけるとき、前輪がロックするとハンドルが利かなくなります。できるだけ後輪のブレーキを使ったほうが安全に停止できます。

③市販されているタイヤに滑り止めスプレーを使用することで摩擦力が上がりタイヤが滑るのを防ぎます。

水道管の凍結について

水道管は寒さが苦手であり冬場は特に気を付けなければなりません。気温が-4℃以下になると、水道管が凍ってしまい、破裂する可能性があります。屋外は最も気を付けなければならず、次のような場所を確認しておくといいと思います。



- 【確認すべき場所】
- むき出しになっている水道管
 - 家の北側などで、日の当たらない場所の水道管
 - 風当たりの強い場所の水道管

水道管の凍結を防ぐには

水道管に防寒材を取り付けることで対策できます。むき出しになっている水道管や蛇口に保温材・古い毛布などを巻き付け、その上からビニールテープなどを巻いて凍結を防止できます。高校生の私たちでも簡単にできることなので、天気予報で「明日は冷え込みます」と予報が出たときは、是非対策をしましょう。

ぼうさい通信を読んでいただきありがとうございました。今回の通信が少しでも皆さんの役に立つことを願っています。

【文責 全日制防災委員】